

読解力を育てる説明文の学習指導の工夫

～考えを交流させる場の設定を通して～

糸満市立真壁小学校 宮城 実子

I テーマ設定の理由

人は、言葉を使って生活を営み、言葉を使って考え、言葉を使って学習を行う。このように考えると、社会生活を行う上で基本となる教科、とりわけ全教科の学習を支える教科は、言葉の学習を行う国語科である。算数の問題を解くにも、社会科や理科の問題を解くにも国語を正確に理解する能力と国語を適切に表現する能力が必要となる。

国語科の目標の前段に「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成する。」とある。国語の能力の根幹となる「国語による表現力と理解力とを育成すること」が、国語科の最も基本的な目標であるとも述べている。

平成24年度全国学力・学習状況調査の結果では、「グラフや表に含まれる情報を正確に読み取った上で、話したり書いたりすること」「目的や意図に応じて必要となる情報を取り出し、それらに関係づけて解答すること」などの「問題を読み解く力」に課題があるとしている。また、平成24年度沖縄県到達度調査でも「目的に応じて読んだり、要約したりすること（3年）」「目的に応じて文章の内容を的確に押さえ読むこと（5年）」について知識・技能を活用する力に課題があるとしている。どちらも、読解力に課題があると考えられることから、読解力を育てる学習指導の工夫が大切であると言える。

私の実践を振り返ると、児童に物語の楽しさや言葉の美しさを学ばせるために、イメージや五感を最大限に発揮した読解力を高める国語の授業に取り組んできた。しかし、読み取るための方法を明確にしてはいなかった。そのため、次の教材に生かせる力に繋がっていなかった。すなわち、読解力を育てる学習が十分にできていなかったと言える。

そこで、本研究では児童の読解力を育てるために、「考えを交流させる場」の設定を行いたい。「考えを交流させる場」を設定することにより、児童は自分の考えや意見を持つために読みを深める。そして、なぜこの考えを持ったのかを理由や根拠をはっきりとさせながら、考えや意見を交流させることで、より考えが深まったり広がったりして論理的に考える力がつく。この論理的に考えることが、「読み取るための方法」を身につけることにつながると考えた。また、「考えを交流させる場」では、適宜「学習用語を使う」ということと、「自分の言葉で考えを述べる」ことができるように指導を行いたい。「学習用語を使う」ということは、視点を持つことができ、考えが明確になったり考えを整理することができたりして、論理的な思考へとつながる。「自分の言葉で考えを述べる」ということは、自分の考えを再構成する事になりより明確にすることに役立つと考えた。また、「考えを交流させる場」では、ペアでの交流・グループでの交流・全体での交流と3つの形態を効果的に取り入れたい。

以上のことから「考えを交流させる場」の設定により、読み取る力が効果的に育つであろうと考え本テーマを設定した。

II 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

高学年の国語科の説明的な文章の学習において、次のような指導の工夫を行えば、効果的に読解力が育つであろう。

- 考えの理由や根拠を自分の言葉で述べる「考えを交流させる場の設定」を行うことで、考えを深めたり広げたりして論理的に考えることができ、読み取りの力が育つ。

2 検証計画

検証授業の対象 : 糸満市立真壁小学校5年1組 20名			
1 授業実践から	検証場面	検証の観点	主な検証方法
	考えを交流させる場	理由や根拠を挙げて論理的に自分の言葉で考えを発表することができ、書き手の意図を読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 児童の発言や発表 振り返り(自己評価) 授業観察
2 授業実践前後の調査	<ul style="list-style-type: none"> 国語意識アンケート 事前(6月) 事後(7月) 力試し(読み取り)テスト 事前(6月) 事後(7月) 		授業の事前事後に同一テストを実施し、比較。
3 まとめ	考えを交流させる場の設定を行い、論理的に考え自分の言葉で考えや意見を交流させることは、「読み取る力」が効果的に育つことに有効であったか。		

Ⅲ 研究内容

1 小学校学習指導要領から

(1) 各学年における「読むこと」の目標

国語科の目標を受けて「読むこと」の内容を、低学年は「事柄の順序」、中学年は「内容の中心・段落相互の関係」、高学年は「要旨」をとらえながら読む能力を身に付けると示されている。そこで、本学級は、「要旨をとらえる」ことに重点を置いた読み取り学習を行う。

表1 各学年における小学校学習指導要領「読むこと」の目標

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。	目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。	目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

(2) 各学年における「読むこと」の指導事項

各学年の「読むこと」の目標を受けて、指導事項が6つ示されている。

- 音読に関する指導事項
- 効果的な読み方に関する指導事項
- 説明的な文章の解釈に関する指導事項
- 文学的な文章の解釈に関する指導事項
- 自分の考えの形成及び交流に関する指導事項
- 目的に応じた読書に関する指導事項

以上6つの指導事項から、本研究では□で囲んだ指導事項を中心に行いたい。

表2 各学年における小学校学習指導要領「読むこと」の指導事項

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
音読に関する指導事項	ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読すること。	ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。	ア 自分の思いや考えがわかるように音読や朗読をすること。

効果的な読み方に関する指導事項			イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。
説明的な文章の解釈に関する指導事項	イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。	イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。	ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ自分の考えを明確にしながらかんたすること。
文学的な文章の解釈に関する指導事項	ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。	エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。
自分の考えの形成及び交流に関する指導事項	エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 オ 文章の内容と自分の経験とを結びつけて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。	エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。	オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。
目的に応じた読書に関する指導事項	カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。	カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。	カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

2 「読解力」について

「読解力」(reading comprehension)とは、「文章の内容を正確に読み取る力」である。しかし、平成15年(2003年)7月にOECD(経済協力開発機構)が実施したPISA調査(生徒の学力到達度調査)の結果から、日本は国際的に見て読解力が高い水準にないことが明らかになった。この調査における「読解力」に相当する分野は、reading literacyと呼ばれるものであり、「PISA型読解力」の表現で従来の用法と区別されている。文部科学省において(2005年12月)は、今後はPISA型読解力の向上を図るための授業改善に取り組むことを求めている。

PISA型読解力とは

自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力。

すなわち、文章や資料から「情報を取り出す」ことに加えて、「解釈」「熟考・評価」「論述」することを含むものであり、以下のような特徴がある。

- ①内容を理解するだけでなく、評価・解釈・活用・熟考する。
- ②読むだけでなく、利用・活用して自分の意見を論じる。
- ③内容だけでなく、構造・形式や表現法も評価する。
- ④文章だけでなく、図やグラフ、表なども読みの対象とする。

これらの力を付けるために、各学校で求められる改善の具体的な方向として「3つの重点目標」が示された。

- | |
|---|
| 目標① テキストを理解・評価しながら読む力を高める取り組みの充実。 |
| 目標② テキストに基づいて自分の考えを書く力を高める取り組みの充実。 |
| 目標③ 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会の充実。 |

以上のことから、「PISA型読解力」を付けるためには、読む力、書く力、話す・聞く力、考える力と関連した、国語の三領域を貫く力を付けるための授業改善が必要とされている。

3 第5学年及び第6学年の「読むこと」重点指導事項について

学習指導要領における国語科改訂の趣旨の一つが「実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること」である。そこで、高野浩男（2010年）によると授業で扱う教材が教科書の文章一つだけで終わってしまうことがないように指導方法を見直す必要がある。と述べており、重点指導事項を以下のように解説している。

(1) 重点指導事項

① 目的に応じて、本や文章を比べて読むこと（イ 効果的な読み方に関する指導事項）

高学年になると、各教科等の学習を通して調べるために資料を集めたり、同じ作者の作品を数多く読んだりするなど、読む目的が多様化する。また、情報源も本のみならず、新聞や雑誌、インターネットなど様々である。このようなことを考えると、これまでのように、本や文章を初めから、順に読み進めていく読み方だけでは不十分である。「比べ読み」のほか、「速読」、「本や文章全体を俯瞰しながら拾い読みする摘読」、「同じ課題で多くの本を重ねたり平行させたりして読む多読」など、目的に応じて読み方を使い分けていけるように指導することが必要である。

② 文や文章を読んで自分の考えを持つこと（オ 自分の考えの形成及び交流に関する指導事項）

これまでは、どの学年においても、本や文章に「何が書いてあるのか」「登場人物はどんな気持ちだったのか」に着目するだけになり、読者が受け身的に読み進めていくことが多かった。しかし、読んだ情報から「何を考え」「どう活用していくのか」など、自分の考えをまとめるなどの主体的な読みが求められる。

③ 自分の考えたことを発表し合うこと（オ 考えの交流に関する指導事項）

高学年の児童は、物事を多面的にとらえ思考することが大切である。国語科においても、各自が考えたことを発表し合い、それぞれが考えたことの共通点や相違点を明らかにしながら「自分の考えを広げたり深めたりすること」が求められる。その際、友達の違った考えを認め合う受容的な学級作りに努めることや、積極的に自分の考えをまとめたり発表し合ったりすることの意義を感じ取れるように指導していくことが重要である。

④ 目的に応じて複数の本や文章などを選んで比べて読むこと（カ 目的に応じた読書に関する指導事項）

高学年になると、児童の興味関心も多様になる。単一の読書教材だけで学習を展開することは避けたい。そこで、複数の本や文章を選んで比べて読むことで、共通点や相違点を発見する喜びを知ったり、知識や情報が豊かになったり、読書の範囲が広がったりすることなどを期待したい。読書の意義や楽しさを実感し、日常的な読書生活を築いていくことが望まれる。

4 「考えを交流させる場」について

「考えを交流させる場」では、単に意見を発表するのではなく、理由や根拠を述べて論理的に意見を出し合うことが大切である。そうすることにより、読み取りの方法を児童が自分の言葉で再構成する。この一連の学習が読解力につながると考えた。あわせて、友達の意見を聞くことで考えが深まったり広がったりして効果的に読解力の育成に繋がるであろうと考える。そこで「考えを交流させる場」の指導方法（形態）・論理的な思考の仕方・発表の仕方について考えた。

(1) 「考えを交流させる場」の指導方法（形態）

河野順子（2009年）は、低学年・中学年・高学年の発達段階に分けて考えの交流形態を工夫している。

<p>低学年 → 1年生では、どの児童にも発言をどんどん言い合うことの喜びや成就感を味わわせる必要がある。児童の発言を教師が受け止め、相違点を整理し、児童に返していくことが探究的な話し合いの土台となる。</p> <p>2年生の2学期以降には、1対1のペアでの話し合いを中核にして、考えの相違点を児童たちに見つけさせる。そのペアに他のペアを入れた4人グループを編成して、自分たちの意見の相違点をもとに話し合いを展開させるなど形態を工夫し、どの児童にも話し合う体験を豊富に持たせる。</p>
<p>中学年 → 探究的な話し合いにしていくために、それぞれの相違点を明らかにした上で、自分の考えの理由をしっかりと述べさせることが必要である。この際、理由は複数あった方が説得力は増す。「比較すると主張が明確になる。」「他の可能性を探るためには、仮定法を用いると良い。」などの助言を与えることによって、論理的な考え方・述べ方が身に付くとともに、探究的な話し合いも効果的なものとなっていく。</p>
<p>高学年 → 問題を解決し新たな考えや価値を見出す話し合いへと進めていくことが必要である。他者の考えを受け入れるだけでなく、吟味し、批判的に検討しながら考えを生み出す。</p>

出典：教育科学「国語教育」2009年1月より抜粋

以上の考えを踏まえた上で、ペアでの交流・グループでの交流（リーダー的な児童をどのグループにも配置するなどグループ構成に配慮する）・全体での交流を効果的に取り入れて行いたい。

(2) 論理的な思考の仕方について

「論理的」の語彙を、国語辞典で調べると「きちんと道筋を立てて考えるさま」「事実や根拠に基づいた筋道の通った思考」「前提とそれから導き出される結論との間に筋道が認められて、納得いくさま」とある。そこで「考えを交流する場」では、根拠に基づいて筋道を立てて論理的に思考し交流することにより、考える力が付き、読み取りの方法がわかり、次に生かせる力になるだろうと考える。そこで、論理的に思考するための「思考の仕方」を児童に紹介し意識させ活用させたい（資料1）。

思考の仕方

- | | |
|----------------|----------------|
| ①比較する（比べる） | ②類別する（仲間分けをする） |
| ③定義づける（きまり） | ④関係づける |
| ⑤原因や理由を考える | ⑥順序をたどる |
| ⑦推理する（もし～だったら） | |

資料1 思考の仕方

(3) 発表の仕方について

考えや意見の交流を活発にするために、論理的に考えたことをどのように伝えたらよいか等、考えや意見を発表する時の発表内容の組み立て方（資料2）の指導も大切である。

また、話型指導を行うが、定着してくるとこの話型（資料3）を離れた発表もできるように指導を行いたい。

グループでの話し合いの際には、誰でも円滑に司会ができるように司会カード（資料4）を使って話し合いを行いたい。そして、慣れると司会カードがなくても進行できるように指導を行いたい。

考えを発表するときの組み立て方

- ① 始めに意見や考え結論を述べてから、その理由や根拠・事例を述べる。
- ② 理由や根拠・事例を述べてから、意見や考え結論を述べる。
- ③ 意見や考え結論を、始めと終わりに述べる。

資料2 発表の組み立て方

意見を発表するときの話型	
意見を言う時	<ul style="list-style-type: none"> ・私は、～だと思ひます。理由（わけ）は、～だからです。 ・私は、～だから～だと思ひます。 ・始めに～、次に～、最後に～。 ・もし、～だったら、～なので～だと思ひます。 ・例えば、～。 ・比べると～。 ・まとめると～だと思ひます。 ・〇〇さんの～という言葉で、～と分かりました。
同じ意見の時	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんの意見に賛成です。～だから、～だと思ひます。 ・私は、～だと思うので、〇〇さんの意見に賛成です。
違う意見の時	<ul style="list-style-type: none"> ・私は、〇〇さんと違って、～だと思ひます。
付け加え	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんに付け加えます。～だと思ひます。
質問	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんに質問します。～について教えてください。
意見が変わった時	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんの意見を聞いて考えが変わりました。～だと思ひます。 ・〇〇さんと□□さんの意見を組み合わせて、～だと思ひます。

資料3 話型指導の例

司会カード
<p>1 これから、～について考えたことを発表します。 〇〇さんからお願いします。 ありがとうございました。質問や意見を発表してください。</p>
<p>2 次に、〇〇さんお願いします。 ありがとうございました。質問や意見を発表してください。</p>
<p>3 最後に私が発表します。 質問や意見をお願いします。</p>
<p>4 これで、～についての発表を終わります。</p>

資料4 グループ学習時の司会カード

5 書く活動・考えを交流する場における「言語意識」について

考えを交流する場では、考えを明確にするために自分の考えをノートに書き込ませてから交流をさせたい。この交流の前に意見をノートに書く「書く活動」と、教材で学習した力を活かして新聞記事を書く活動では、児童が主体的に取り組めるように小森茂（1999年）の「五つの言語意識」を活用したい。この「五つの言語意識」は考えの交流の場においても伝え合う力を育成するために活用したい。以下、「五つの言語意識」を述べる。

- | | |
|----------------------------------|--------------|
| ①自分にとっての「相手意識」 | → だれに |
| ②①を受けて自分にとっての「目的意識」 | → なんのために |
| ③①②を受けて自分にとっての「場面・条件意識」 | → どういう点に注意して |
| ④①②③を受けて自分が意図的・計画的に活用するための「方法意識」 | → どんな方法を使って |
| ⑤①②③④を受けて自分の表現行為・理解行為の「評価意識」 | → どうだったか |

（評価の観点を教師の評価の観点と同じにすると良い）

IV 検証授業

1 単元名 書き手の意図を考えながら新聞を読もう

2 教材名 「新聞記事を読み比べよう」

3 単元設定の理由

(1) 教材観（省略）

(2) 児童観

本学級は、国語が好きな児童は55%、まあまあ好きは35%、あまり好きではない児童が10%で、全体的には教科として好きな割合が高い。あまり好きではない児童の理由は、漢字が苦手ということだが、読み取りの学習に苦手意識がある児童も15%いる。また、家での音読を毎日奨励していて、全員が毎日行っている。宿題は、ほとんどの児童が毎日やってくる。学校図書の出借冊数は、月平均6冊で、男女差や個人差が大きい。また、新聞を週に2・3回読む児童は2名、週に1回読む児童は4名、たまに読む児童は7名いる。読んでいる記事は主にスポーツ面・4コマ漫画・テレビ欄であった。本教材は、新聞記事の読み比べなので、日頃の読書活動の意欲付けと同時に、新聞読書にも親しむよう意識付けを行いたい。

(3) 指導観

第5学年及び第6学年の「読むこと」の目標は、「内容や要旨をとらえながら読む能力を身につけさせる」ことである。新聞の書き手の意図を読み取ることは、要旨をとらえることである。本教材では、書き手の意図を読み取るための方法を学習させたい。また、新聞記事は、結論から先に書き事例などを挙げていく「逆三角形の構成」なので、書き手の意図を読み取り易いと考えられる。あわせて、新聞記事の特徴・編集の仕方・記事の書き方・写真の効果なども学習させることにより、新聞に親しませ、新聞読書が楽しく有意義であると実感させたい。また、新聞読書は、社会参加の第一歩であり、日常の言語能力を充実させることにもつながることから、効果的であるとする。

本教材は、二つの新聞記事を読み比べる学習を行う。書き手の意図が違っていると、同じ事柄を題材に書いた文章でも、論の展開や使用する図表・写真は異なり結論も違ったものになる。文章を読むときは、その点を意識する必要がある。そこで、まず「一人読み」をした後ノートに理由や根拠を明確にして自分の考えを書き（宿題）、授業で考えの交流の場を設定し、読み取ったことを発表させて考えの交流を行わせたい。理由や根拠をはっきりとさせることで、読み取りの方法が明確になるだろうと考える。さらに、新聞記事を読んで、書き手のメッセージを短い言葉で表現する「見出し作り」を取り入れたい。この活動で要旨の読み取りの方法がさらに身につく、新聞に親しみをもちることができるだろうと考える。第3次では、これまでの学習を総合的に活かして「新聞記事作り」を行わせたい。この学習は、「総合的な学習」で行った平和学習と関連させて行いたい。平和学習で、ひめゆり資料館に行き戦争中に起こったことを学習している。また、学校全体での平和集会において元ひめゆり学徒隊の方の体験も聞き学んでいる。その学習したことから友達や家族・学校のみんなに伝えたいメッセージを考えて新聞記事を作らせたい。その際には、読者の関心を引く見出しや、メッセージが効果的に伝わる写真や図表を使って新聞記事を作らせたい。また、書く意欲や内容を高めるために、「5つの言語意識」を明確に持たせて記事作りに取り組みさせたい。

4 単元の指導目標（観点別評価規準）

(1) 単元の目標

○二つの新聞記事を読み比べて、書き手の意図を読み取る。

（「読むこと」(1)イウ、(2)ウ、「書くこと」(1)オカ）

(2) 単元の評価規準

観点	評価規準
〔関〕 国語への関心・意欲・態度	○新聞記事には意図があることを理解し、進んで書き手の意図を読み取ろうとしている。 ○新聞記事の特徴を理解して、自分の記事に活かそうとする。
〔書〕 書く能力	○記事の内容や写真に合う効果的な見出しを書いている。 ○書いた見出しについて、効果を考えながら工夫を伝え合っている。 ○写真の効果を考えながら文章全体の構成を考えて書いている。
〔読〕 読む能力	○写真や見出しに気をつけて2つの記事を読み比べ、それぞれの記事の内容やねらいの違いを読み取っている。 ○書き手の意図を考えながら記事の内容を読み取っている。 ○書き手の意図を考えながら見出しやリード、本文などを読み、これらを総合して要旨をとらえている。

(3) 学習指導計画と評価計画

時	学習計画	評価規準 (評価方法)	A十分満足できる	C努力を要する 個への指導の手 立て
第一 次	1 ○教材のねらいを確かめる。 ○新聞の特徴や編集の仕方、記事の書き方などを理解する。 ○2つの新聞記事の内容を確かめる。 ○新出漢字と読み替えの漢字を学習する。 ○自己評価をする。	・新聞記事には書き手の意図が込められていることを理解し、意図を読み取る学習に意欲的に取り組もうとしている。【関】 発言・行動観察・ノート	・新聞記事には書き手の意図が込められていることを理解し、意図を読み取る学習に意欲的に取り組むことができる。	・友達の発言を参考にさせたりノート記入の支援を行ったりして、意欲を高めさせる。
第二 次	2 ○本時のめあてを確認する。 ○2つの記事を読み、共通点を探して発表する。 ○新出漢字と読み替えの漢字を学習する。 ○自己評価をする。	・写真や見出しに気をつけて2つの記事を読み比べ、共通する内容を読み取っている。 【読】 発言・ノート	・写真や見出しに気をつけて2つの記事を読み比べ、共通する内容を読み取ることができる。	・2つの記事を見比べながら、同じ記述を探させる。
	3 ○本時のめあてを確認する。 ○2つの記事を読み、相違点を探して発表する。 ○書き手のメッセージを考える。 ○自己評価をする。	・2つの記事の相違点をとらえ、それぞれの書き手のメッセージを読み取っている。 【読】 発言・ノート	・2つの記事の相違点をとらえ、それぞれの書き手のメッセージを読み取ることができる。	・リードや写真の読み取りや見出しに着目させて、書き手のメッセージを読み取らせる。
	4 ○本時のめあてを確認する。 ○2つの写真を読み解く。 ○それぞれの写真の効果について考える。 ○読みの確認を行う。 ○自己評価をする。	・写真を読み解き、書き手のメッセージと関連づけながら効果をとらえている。 【読】 発言・ノート	・写真を読み解き、書き手のメッセージと関連づけながら効果をとらえることができる。	・写真に写っているものに○を書き込ませながら、写真に書き手のメッセージが表れているか考えさせる。

本時	5	○本時のめあてを確認する。 ○新聞記事と写真から考えて見出しを付ける。 ○見出しの発表をする。 ○自己評価をする。	・記事の内容や写真に合う効果的な見出しを付けたり、書いた見出しについて互いに効果を考えながら工夫を伝えあったりしている。 【読】ノート・発言	・記事の内容や写真に合う効果的な見出しを付けることができる。 作った見出しについてどんな工夫があるか説明することができる。	・本文やリードの中から、大切な言葉を探させて見出し付けをさせる。
第 三 次	6	○本時のめあてを確認する。 ○新聞記事を書く。 ○自己評価をする。	・写真の効果を考えながら、文章全体の構成を考えて新聞記事を書いている。 【書】作品・行動観察	・写真の効果や文章全体の構成を考えて新聞記事を書くことができる。	・伝えたいメッセージを考えさせてから、結論から先に書き事例を書かせる。
	7	○本時のめあてを確認する。 ○記事の発表をする。 ○学習したことを整理する。 ○自己評価・相互評価をする。	・書き手のメッセージを考えながら見出しや本文などの発表を聞き、これらを総合して要旨をとらえている。 【読】発言・ノート	・書き手のメッセージを考えながら見出しや本文の発表を聞き、これらを総合して要旨をとらえる事ができる。	・評価の観点を考えながら、発表を聞くよう促す。

5 本時の学習 5/7

(1) 本時のねらい


新聞記事の内容を読み取り、効果的な見出しを付けることができる。


(2) 本時の授業仮説

理由や根拠を明確にして友達と考えを交流させることで、書き手のメッセージを読み取り見出しを付けることができるであろう。

(3) 本時の展開

準備 ・見出しを消した新聞記事（2種類） ・ワークシート ・短冊 ・新聞見出し紹介のPC

段階	学習活動	○教師の支援 ・指導上の留意点	◆授業仮説の検証 ☆本時の評価（評価方法）
導 入	1 前時までの学習を振り返る。 2 本時のめあてを確認する。 めあて 書き手のメッセージを考えて、ぴったり合った見出しを付けることができる。	・新聞記事の特徴をまとめた表で振り返らせる。	
	3 見出しを付けるために、気をつける点や効果的な付け方を考える。	・これまでの学習を振り返り考えさせる。 ○見出しは、10文字前後 ○漢字や熟語を効果的に使う ○倒置法を使うときもある「見せませ底力」など ○主語を省略したり体言止めをしたりする「浅田選手銅メダル」 ○助詞で終わることもある「～に」「～へ」「～で」「～と」 ○数値を使う事もある「138億歳」「過去最高」「世界最大」など	
展 開	4 新聞記事に見出しを付ける。	○書き手のメッセージを読み取る方法のヒントカードを参考にして考えさせる。	

	<p>5 付けた見出しをグループの人に紹介する。 考えた見出しが適当であったかグループの人と一緒に考える。</p>  <p>6 全体の場で考えた見出しを発表する。</p>	<p>・紹介するときは、付けた理由や根拠を伝えさせる。 ○話し合いカードを基に、話し合うよう促す。</p> <p>・発表の後に、感想も発表させる。 ・効果的な見出しと思う理由や自分だったらという意見も発表させる。</p>	<p>☆書いた見出しについて、工夫を伝え合っている。(発言) ◆理由や根拠を明確にして友達と考えを交流し、効果的な見出しを付けている。 (行動観察) (発言) ☆記事の内容や写真に合う効果的な見出しを書いている。 (ノート)</p>
まとめ	<p>7 振り返りを書く。 8 次時予告</p>	<p>・振り返りで、めあてに対する個人評価と感想を書かせる。</p>	

(4) 板書計画

<p>考えた見出し</p>	<p>新聞記事</p>	<p>見出しの特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ○見出しは、十文字前後 ○漢字や熟語を効果的に使う ○倒置法を使う 『見せませす底力』 ○主語を省略したり、体言止めにしたりする 『浅田選手銅メダル』 ○助詞で終わることもある。 「しに」「しへ」 ○数値を使うこともある。 「世界最大」 など 	<p>めあて</p> <p>書き手のメッセージを考えて、ぴったり合った見出しを付けることができる。</p>
---------------	-------------	--	---

6 授業仮説の検証

本時の授業仮説について、学級全体の評価をもとに考察する。表3は、検証授業における児童のワークシートの記述や授業観察からの評価である。

表3 学級全体の評価

検証場面	検証の観点	評価基準			検証方法	検証結果 AB 合計
		A 十分満足	B 満足	C 努力が必要		
見出しを考えて、グループで考えを交流する	理由や根拠を明確にして友達と考えを交流し、書き手のメッセージを読み取り見出しを付けることができたか。	書き手のメッセージを読み取り、見出しを付けることができる。	友達の意見やその理由を聞いて、見出しを付けることができる。	書き手のメッセージを読み取ることができず、友達の意見を聞いても見出しを付けることができない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・授業観察 	<p>100%</p> <p>19名 (1名欠席)</p>
	結果	37% (7名)	63% (12名)	0% (0名)		

授業仮説について

グループで考えの交流を行う前に、見出しを付けていない児童は、63%いた。しかし、他の児童からアドバイスをもらったり、他の児童の見出しや見出しを付けた理由を聞いたりして、書き手のメッセージを読み取ることができ、全員が見出しを付けることができた。

考えの交流の場で、リードを指さして「どこが大切だと思った?」「写真を見てどう思ったの?」等、書き手のメッセージを読み取る方法を自分の言葉でアドバイスをしていた児童がいた。その児童は、考えや読み取る方法をさらに明確にすることができ、考えが深まったことと考えられる。また、当初見出しを付けることができなかつた児童も、見出しを付けた理由の中で「リードの中で大切と思ったから。」「写真にエイトマン役の子供たちが楽しそうに写っているから。」と書き込んでおり、友達のアドバイスや意見を参考にした様子が伺える。考えの交流をすることによって、読み取る方法に気付いたことが分かる。以上のことから、考えの理由や根拠を明確にして友達と考えを交流することで、書き手の意図を読み取り見出しを付けることができたといえる。

V 研究の結果と考察

1 理由や根拠を明確にして論理的に自分の言葉で考えを発表し、考えの交流をすることは、書き手の意図を読み取ることに有効であったか。

(1) ワークシート2時間分の分析から

第2・3時のA社とB社の新聞記事から書き手のメッセージを読み取る学習において、書き手のメッセージの根拠となる理由をワークシートに書き込んでいる児童は、80% (16名) である。考えの交流をすることにより、書き手のメッセージを読み取ることが全員できた。よって、理由や根拠を明確にして自分の言葉で論理的に考えを発表し、考えの交流をすることは、書き手の意図を読み取ることに有効であったと言える。

さらに、ワークシートに読み取る方法まで書き込んだ児童が、25% (5名) いた。書き手の意図を読み取る時の理由や根拠を明確にするためにも、方法を根拠に基づいて考えさせたい。この思考の流れが「論理的な思考」に繋がる。

○理由の欄にほとんどの児童は、文の大切なところを書き込んでいる。



「アユのおかげで、自然がもどったから。」
「アユの若い力のすばらしさ、アユのシーズンがくることを書いているから。」

○理由の欄に、「根拠」として何から読み取ったかを書き込んでいる児童もいる。これが、具体的な読み取りの方法に繋がると考える (資料7・8)。



「見出しから」「小見出しから」「リードから」「写真から」「本文から」

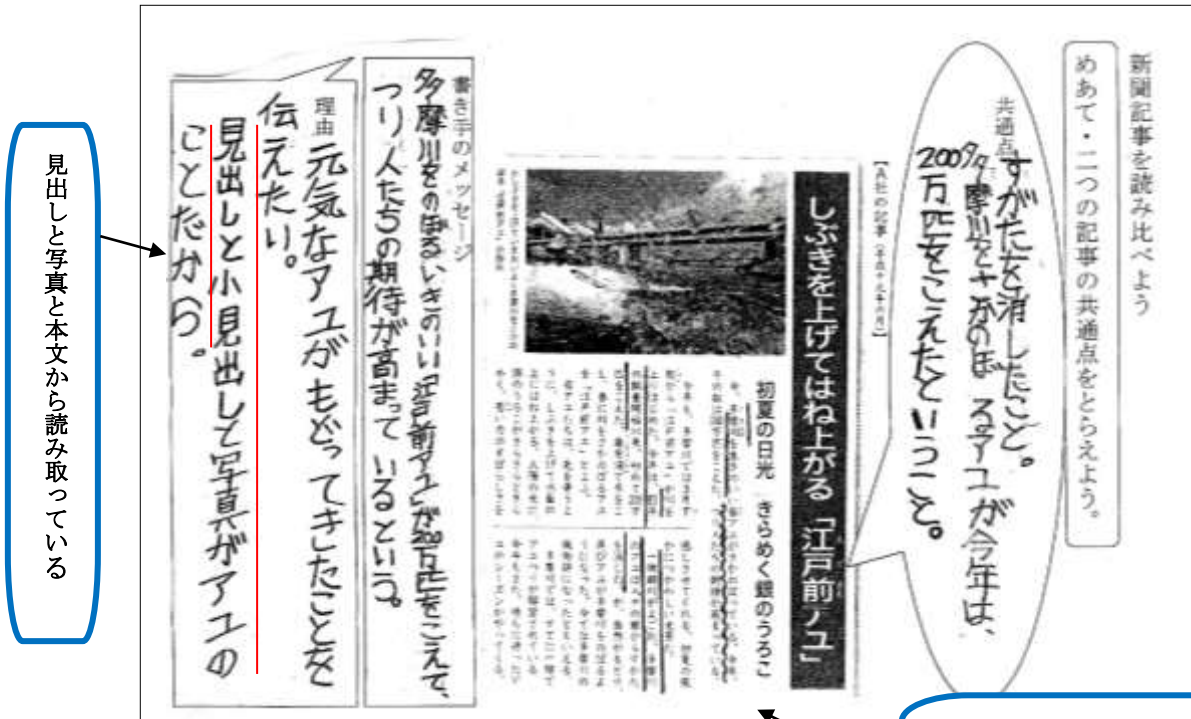
○さらに今後は、「根拠」を明確にするために「なぜ」○○から読み取ったのかをワークシートに書く指導を行いたい。

例 「見出しは、記事の中心を短い言葉で表したものなので、見出しから読み取った。」
「写真は、記事の内容を理解させるためのものやメッセージを強めるためのものなので、写真から読み取った。」
「リードは、記事の内容を短くまとめたものだから、リードから読み取った。」
「本文・リード・見出し・キャプションに何度も出てくる大切な言葉だから。」

以上の考えをもとに、読み取る方法を「見出しから」「写真から」「リードから」「本文から」と具体的にワークシートに書き込み、根拠の「なぜ」も書き込むように指導を行いたい。そのことが、理由や根拠をさらに明確にし、読み取りの方法にも繋がる。ここで培われた力が次の学習へ生かされ、確かな読解力の育成になると考える。

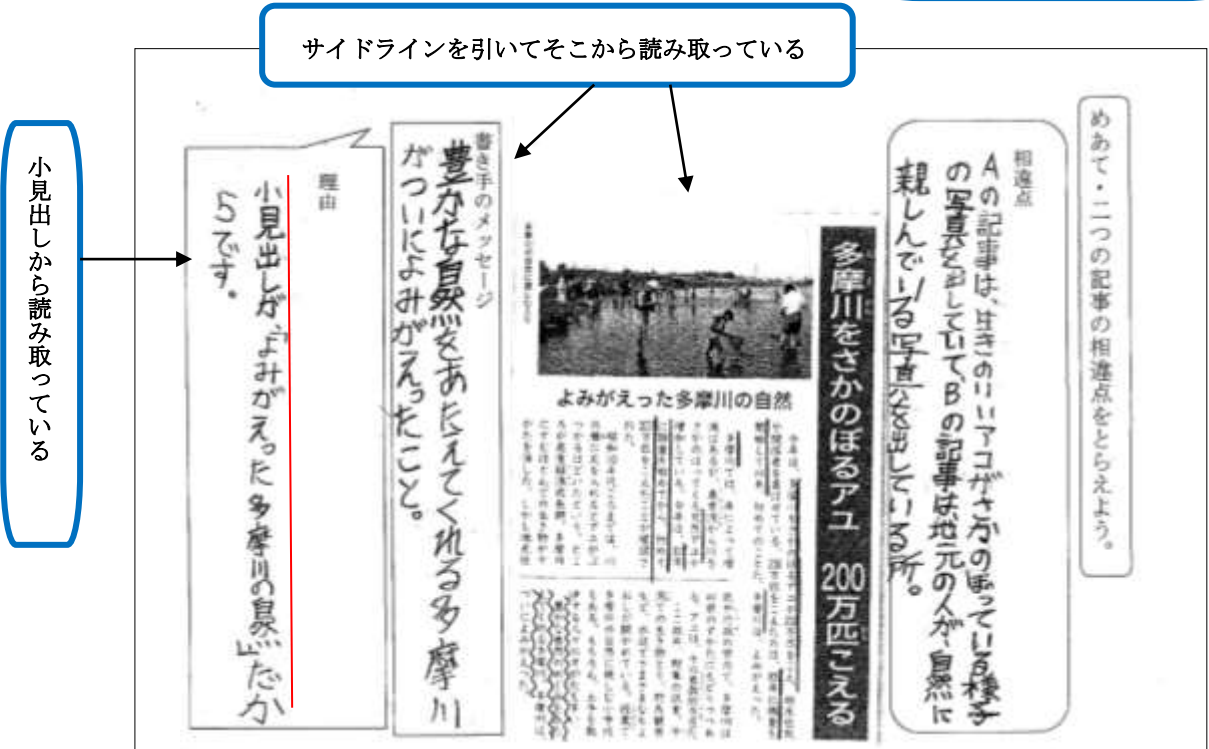
A社とB社の共通点を探してサイドラインを引き、大切だと思う文に波線を引いて書き手のメッセージを読み取っている。読み取るための方法を具体的に「見出し・写真」と書き込んでいる（資料5）。

A社とB社の相違点を探して、書き手のメッセージを「見出し」から読み取ったと具体的に書いている（資料6）。



資料5 A社の新聞記事のワークシート

B社との共通点にサイドライン、大切だと思う文に波線を引いている



資料6 B社の記事を読み取るためのワークシート

① 本文と写真から読み取っている

② 本文から読み取っている。大事な文は、結論（この記事の場合最後）にあると考えたようだ

③ 写真と見出しから読み取っている

資料7 読み取る（A社の記事）方法を書いたワークシート

① 小見出しと本文から読み取っている

② 本文からの読み取りと見出し・リード・写真から読み取っている

③ 本文の構成「始め」「中」「終わり」の「中」から読み取っている

資料8 読み取る（B社の記事）方法を書いたワークシート

(2) 授業観察（考えの交流の場）から

考えの交流の場において司会カードを使うと、使わなかった時と比べて話し合いをスタートするのが早くなり、ほとんどの児童が司会カードを見ながら円滑に会を進めることができた。司会が苦手、いつもは尻込みしていた児童が司会カードがあることで、安心してはっきりした声で会を進めていた。その姿には、自信さえ感じる程であった。また、司会は輪番で回ってくるので「次は僕だ。」と楽しみにしている声も聞けた。よって、考えの交流の場において司会カードを使うことは、話し合いを円滑に進める上で有効である。

(3) 毎時間の振り返り（ワークシート）から

振り返りで、①理由が書けたか。②発表ができたか。③めあてが達成できたか。◎○△で毎時間自己評価させた。全員が③のめあての達成ができた（◎、○）と評価をしている。このことから、考えの交流を行うことにより、考えを深めたり広げたりして読み取ることが出来たと言える。

また、振り返りの欄の感想に「考えたことを言葉にするのは難しい。」と書いた児童がいる。この児

童は、自分の言葉で考えを公表しようと頑張ったことが伺える。「自分で考えた見出しを発表できてよかった。」との感想からは、自分で考えたことに対する成就感が伺える。「みんな迫力のある見出しを考えていたのでよかったです。」と書いた児童は、友達のがんばりを認めて喜びを共有していることが分かる。以上の事から、「五つの言語意識」の評価意識を取り入れた振り返りは、児童が主体的に授業に取り組むために有効であったと考える。

(4) 事前事後のテスト結果から

授業の事前事後に読解力テストを行った。

叙述に即して読み取る問題(全9問)では、全問正解と1問不正解を合わせると、事前テストでは65% (13名)であったが、事後テストでは95% (19名)になった(図1)。叙述に即して読み取る力が付いたといえる。

書き手の意図を読み取る問題(1問)の事前テストでは、正解者80%(16名)に対し、事後テストでは正解者90%(18名)であった(図2)。

以上の事から、理由や根拠を明確にして考えの交流をさせることは、読み取り方の方法が分かり、次に生かせる力を育成し、読解力を育てることに有効だったと言える。

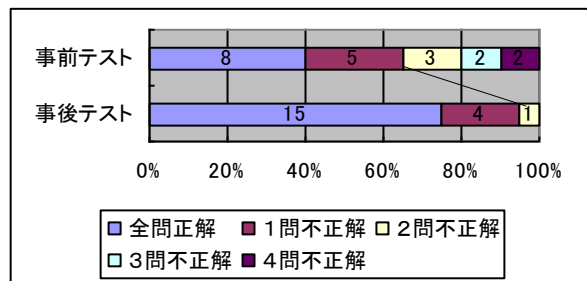


図1 叙述に即して読み取る問題

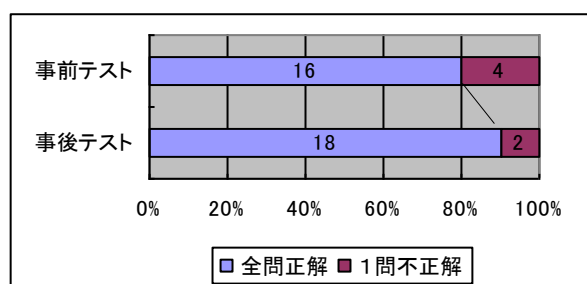


図2 書き手の意図を読み取る問題

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 説明的な文章の学習において、理由や根拠を明確にして考えの交流をさせる場の設定を行うことは、書き手の意図を読み取る力を育てることに有効であった (V-1-(1)(4))。
- (2) ワークシートを2つの新聞記事を載せて作成したことは、2つの記事の共通点や相違点を見つけやすくなり、それぞれの書き手の意図を読み取るために有効であった (V-1-(1))。
- (3) 読み取りの学習において大切な言葉にサイドラインを引かせることは、思考の助けになり効果的に読み取ることができた (V-1-(1))。
- (4) 司会カードを使ったことは、話し合いを円滑に進める上で効果があった (V-1-(2))。

2 今後の課題

- (1) 考えを交流させる場の設定をこれからも継続して行い、理由や根拠を明確にして論理的に考えを發表できるよう指導を重ねることが必要。
- (2) 論理的な思考を促す、話型指導の継続。
- (3) 読解力向上のため、複数のテキストを読み比べる学習の継続。
- (4) 新聞読書を習慣化するために、新聞を活用した学習を計画的に取り入れる。

〈主な参考文献〉

小森 茂 著	『「伝え合う力」の育成と音声言語の重視』	明治図書	1999年
文部科学省	『小学校学習指導要領解説 国語編』	東洋館出版社	2008年
白石範孝 監修著者 江島敬一 編集代表	『学び方を身につける国語科授業』	東洋館出版社	2008年
小森 茂 編著	『教育科学 国語教育』1月号	明治図書	2009年
白石 範孝 編著	『読みの力を育てる用語』	東洋館出版社	2009年
小森 茂 編著	『新小学校国語科 重点指導事項の実践開発』	明治図書	2010年
大越和孝・成家亘宏・藤田慶三 編著	『「読むこと」の言語活動例の展開』	東洋館出版社	2010年
小森 茂 編著	『教育科学 国語教育』3月号	明治図書	2012年



読解力を育てる説明文の学習指導の工夫

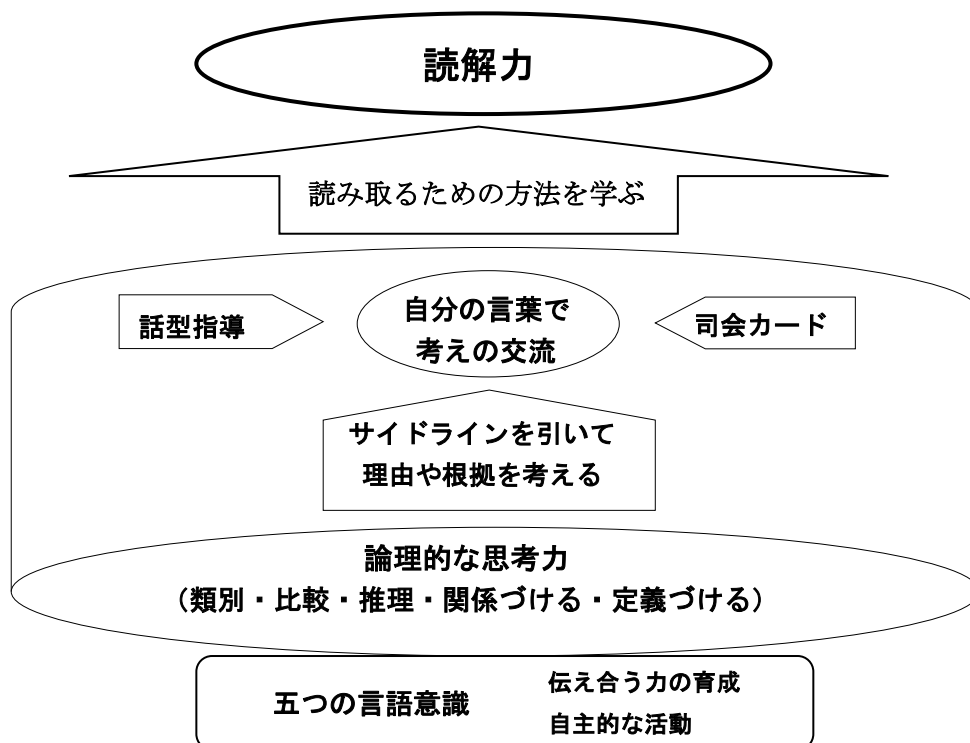
～考えを交流させる場の設定を通して～

糸満市立真壁小学校 宮城実子

1 研究テーマについて

これまでの私の実践を振り返ると、児童に国語の楽しさや大切さを学ばせるためにイメージを大切に授業を行ってきた。しかし、読解力を育てるためには読み取るための方法を学ばせることも大切であると思った。そこで、理由や根拠を明確にして論理的に思考し、自分の言葉で考えの交流を行う場の設定をすることで、読み取るための方法が分かり読解力が育つであろうと考え本研究をスタートさせた。

2 研究の特徴



3 指導の実際



根拠を示し見出しを考える



グループで発表し合う(考えの交流の場)



見出しを短冊に書く

4 研究の成果

説明的な文章の学習指導において、理由や根拠を明確にして論理的に考え、自分の言葉で友達と考えの交流を行うことで、読み取る力が付いた。